

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～日本の雇用構造の課題、今年予定される消費者物価指数の基準改定について分析します。

2011/1/28 「産業・雇用構造のサービス化の課題 ～サービスの海外展開と高付加価値化を通じた内需の底上げが必要～」

2011/1/21 「改定版・消費者物価指数基準改定の影響 ～▲0.7%ポイント程度の下方改定を予想。薄型テレビの影響大～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2010/2/14 「Market Watching Weekly Market Report」(毎週月曜日配信)

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～国のバランスシートである国富統計で起こっている変化について解説しています。

2011/2/7 「国富沈下、貯蓄は初減少 ～政府の赤字体質が進んで正味資産もマイナス～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～産業構造ビジョンで描かれる、労働市場の将来像を分析しています。

2011/2/3 「2020年の労働市場を展望する ～「産業構造ビジョン2010」達成でも07年対比▲232万人の就業者数減～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～デフレ回避に本腰の米国、財政不安に身構える欧州、成長続くアジアについて解説しています。

2011/1/26 「米国 Fed Watching 総額6000億ドルの長期国債購入継続を決定～引き続き必要に応じて購入ペースや規模を見直す方針～」

2011/1/18 「欧州 EFSFの規模・機能拡充の行方～「包括対応」への期待の高まりと失望売りのリスク～」

2011/1/21 「中国経済事情：景気は力強く、3年ぶりに二桁成長を達成 ～物価上昇要因は残り、春節明けより金融引き締めが一段と進められよう～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

厳しい就職環境をくぐり抜けて、この春に晴れて新社会人になれる方々は多い。「氷河期以上」と深刻さが伝えられる就職環境の背景には、日本の産業が直面する現実も横たわっている。すでに本業の主戦場や社員の出身国が、日本という枠を超えて広がっている企業も多い。新興国市場と日本国内市場との成長期待の差はこのところ開き気味だ。このため、日本に根を張り、産業をリードしてきた企業であっても、経営資源のバランス調整を余儀なくされている。それゆえ若者たちのためにも、世界に向けて伸びるビジネスや、より良い仕事のひとつでも多く生まれるように、いまこそ国内への投資を後押しする政策が大切なのだ。

かたや、先月号の「けいざい・かわら版」では、新卒者が海外勤務を望まなくなったことを取り上げた。日本経済の正念場でのことだけに気がかりだ。グローバル化の激流の中で日本経済を担う次の世代に託された期待は大きい。就活のテクニックに頼らず、時代の動きにしっかりと眼を凝らしてほしい。(H. U)